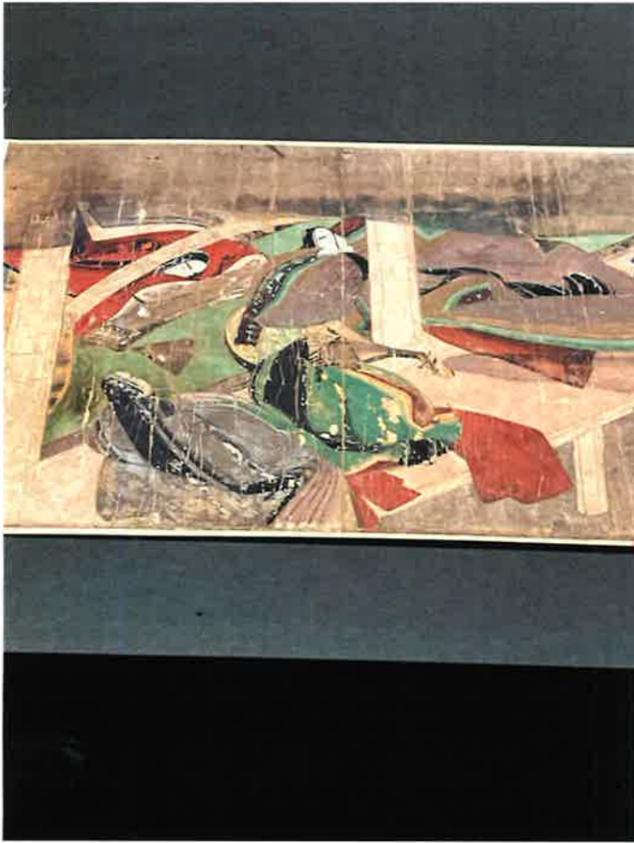




「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」 レポート



国宝 源氏物語絵巻 橋姫 (部分) 一巻
平安時代 12世紀 徳川美術館 【展示期間: 7/31~8/15】

今回は二つの至宝(国宝)がサントリー美術館に集います。一つ目は平安時代にかかれた源氏物語の絵巻です。見ているとかいていた人の力が、平安時代から今まで保管されて今見られるという感動で、心がいっぱいになりました。このころから雲で場面を変える技法を使っていたそうです。文字の下に金箔や銀箔をあざと、ちらばめさせてオシャレにしているそうです。そのポイントも注目してほしいと学芸員さんはおっしゃっていました。ぜひ注目して見てね!



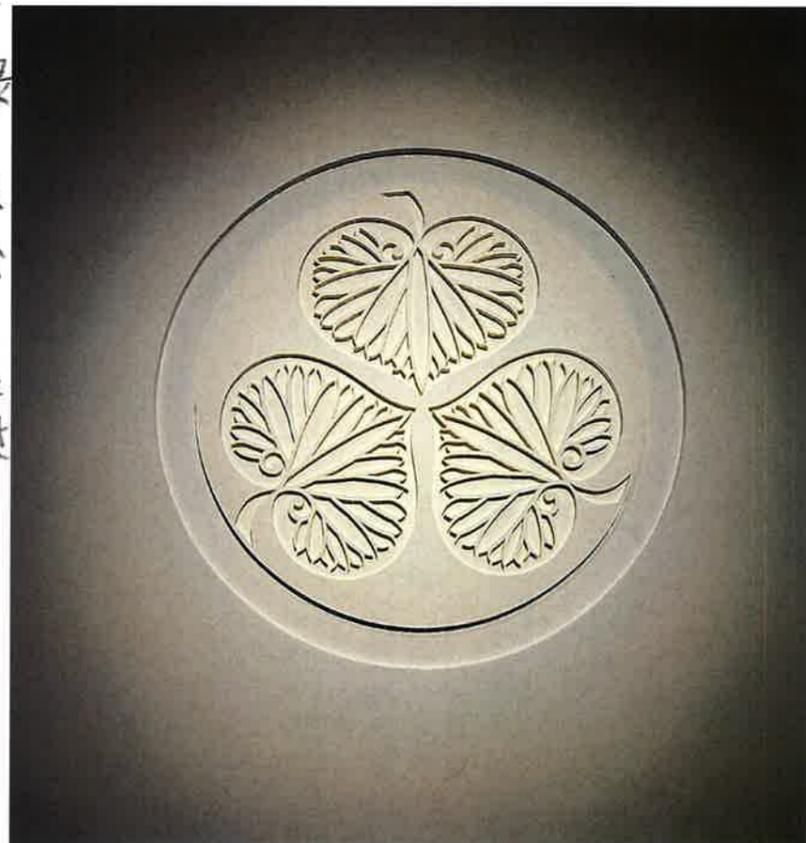
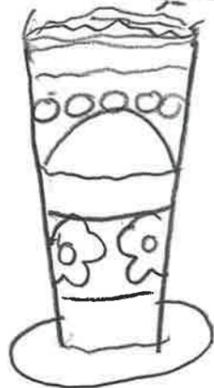
国宝 胡蝶碁絵将棋盤・駒箱 一揃 江戸時代
寛永16年(1639) 徳川美術館 【展示期間: 7/31~9/1】

二つ目の至宝は十代女将に送られた、胡蝶碁絵将棋盤・駒箱です。この品は十代女将が尾張徳川家に行く時に送られた物です。とても金箔や銀箔をふんだんに使った作品です。見るだけで神々しくて他の作品にはかくし文字があることを教えてくれました。小さなラフで下から下す事により、もっとすばらしい作品に見えるようになりました。ぜひそこを注目して見て下さいね。



へここに注目

今回の企画展のグッズでおすすめなのは、名物コレクションアクリルスタンドや、東京会場では見られない作品も見られる記録などが手に入るミュージアムショップ、カフェ、不室屋の初音の言叶パフェで金箔をどんと乗せた豪華なパフェです。ぜひご賞味下さい!!



展示風景